

令和5年度第1回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和5年8月2日（水） 10:00～11:10

場 所：江別市民会館21号会議室

出席委員：白崎敬浩委員、小林孝広委員、新田雅子委員、菊地達夫委員、
藤本直樹委員、小林徹男委員、田原久美子委員、岸本佳廣委員、
森本弘之委員、腰原久郎委員、中井和夫委員、赤川和子委員、
菅井美恵子委員（計13名）

欠席委員：萩原克郎委員、佐々木尚弘委員（計2名）

事務局：企画政策部伊藤次長、健康福祉部四條次長、政策推進課嶋中課長、
中住主査、池田主任

その他：ココルクえべつ事務局高橋サブコーディネーター

傍聴者：2名

会議概要

1 開会

2 会長の互選及び会長代理の指名

白崎委員を会長として選出、白崎会長より萩原委員を会長代理として指名。

3 議事

（1）形成事業計画におけるKPI達成状況

資料1、参考資料（事務局から説明）

（2）地域交流の取組状況

資料2（事務局から説明）

【質疑】

（1）形成事業計画におけるKPI達成状況

○新田委員

KPI②「拠点地域における雇用人数」について、令和3年度に計画よりも増員して雇用した理由に「老人保健施設や特別養護老人ホームなどの生活サポーターの業務量が増大した」と書かれているが、「生活サポーター」とはどのような役割の人なのか。

○小林委員

「生活サポーター」は日本介護事業団の独自の名称である。通常の特別養護老人ホームや老人保健施設では、食事は配膳員が入居者の食事スペース

に届けるものであるが、ココルクえべつにある特別養護老人ホームにおいては、札幌市清田区のアンデルセン福祉村内にあるセントラルキッチンで調理されて運ばれてきたものを、「生活サポーター」がユニットごとに設置している家庭用キッチンで温め直して入居者に提供している。「生活サポーター」は地域の方にご協力いただいております、朝と夕方の食事の提供と後片付けの仕事をお願いしている。

○藤本委員

KPIの達成状況の報告から、最終目標を大幅に達成もしくは概ね達成しているとのことで、すばらしい状況であると感じた。KPI②の「拠点地域における雇用人数」の中で、市内在住の人と市外在住の人はそれぞれ何割ぐらいなのか、わかる範囲で教えていただきたい。

○小林委員

大体7割弱が市内在住で、3割強は市外から通勤している。市外から通勤する人の多くは、札幌市厚別区や札幌市白石区からである。

(2) 地域交流の取組状況

○森田委員

3ページ「ココルクえべつもったいないでない会」の取組の内容について、前回の協議会において「フードロス商品やコンポストイベントなどを実施する」という内容について質問したが、その時点では詳細が未定であった。現段階では具体的にどのようなことを実施するのか決まっていたらお聞きしたい。フードロス商品の販売ということについて、私としては少し抵抗感があるので、その点についてもどのように実施することを考えているのかお聞きしたい。

また、前回の協議会において報告のあった、令和5年度取組予定の「ココルクでわくわく」について、今回の報告の中のどこかの取組に組み込まれているのかについても教えていただきたい。

○事務局

「ココルクえべつもったいないでない会」の内容については、9月末ごろに実施予定であるが、詳細は未だ決まっていない。地域交流コーディネーターが検討を行っているところであり、これからすり合わせを行うところである。

「フードロス商品の販売」については、詳細は決まっていないが「賞味期限の切れた食品」を売るということは想定していない。

また、前回の協議会でも説明したとおり、前回森田委員からご意見いただいた「フードドライブ」の実施というところまでは、今回の取組では想定していない。あくまでもココルクえべつの中で、資源循環をテーマに何かできないかということで検討を行っているところである。今回やってみた内容や

地域住民の参加の状況などから、次回以降取組を広げていくことができるのかを検討していきたいと考えている。

前回の協議会で報告した「ココルクでわくわく」については、今年度から新たに行うココルクえべつ独自の取組として、ココルクえべつの敷地を自治会に貸して自治会の行事などを行ってもらおうというものである。詳細はココルクえべつ事務局から説明してもらう。

○ココルクえべつ事務局

ココルクえべつ内の敷地を自治会に貸し出すにあたり、これから具体的なルールなどを決める予定である。まずは8月4日にココルクえべつサービス付き高齢者向け住宅の中で発足した自治会の行事に貸し出すことが決まっている。今後は少しずつ近隣の自治会にも貸し出しの対象を広げていきたいと考えている。

○森田委員

私が支援している団体がこれから「フードドライブ」を行おうとしているところなのだが、取り扱うフードロス商品は賞味期限1ヶ月以上前のもののみというルールを決めている。フードロス商品の取扱の仕方については、ココルクえべつの中で残ったものを販売するのか他から集めてくるのかなども含めて、詳細をじっくり検討する必要があると考える。9月にココルクえべつでイベントを実施するにあたり、現時点で詳細がまだ見えていないことに対して不安感があるため、早急に検討を進めてもらいたい。

○事務局

早急に検討を進めていく。フードロス商品の販売については、当初の地域交流コーディネーターの案によると、企業から賞味期限の近い商品を提供してもらうことを想定しているとのことだった。具体的には未定であるため、結果については、次回にご報告させていただきたい。

○白崎会長

フードロス対策については、昨今色々な形で実例があると聞いている。時間がない中だと思うが事例を研究しながら早急に検討を進めてほしい。

○中井委員

前回の協議会でも話したが、このコロナ禍の状況であっても多くのイベントを実施できているという思いである。入浴施設やレストラン、パン工房、パークゴルフ場は非常に多くの利用者がいるように見受けられるので、追加で説明していただきたい。

○事務局

中井委員のおっしゃる通り、入浴施設やレストラン、パン工房は地域の多くの方に利用していただいているところである。ココルクえべつより聞いている令和4年度の利用者数を申し上げますと、パン工房は年間で27,578人、

ひと月あたりは2,000人程度、レストラン開拓うどんは年間で23,741人、ひと月あたりは2,000人程度、入浴施設は年間で41,891人、ひと月あたりは3,000人程度であった。レストランこう福亭は、夜の営業のみで予約制のため年間の利用者は149人である。

パークゴルフ場は、年間利用者は把握していないのだが、コロナ禍で落ち込んでいたが少しずつ客足が回復しており、管理を担当するあじさい会もPRを積極的に行っていきたいと話していた。

○中井委員

少し前のことになるが令和3年度に市民会館で開設1周年記念の報告会が行われ、地域の方々がたくさん来られた。このことについても地域交流の取組として報告すべきだと思う。報告会で発表した入居者と話すことがあるが、大変励みになったと言っていた。

○白崎会長

応援のお言葉と受け止めさせていただく。他に質問等はあるか。

○赤川委員

保護者と企業のための福祉事業所見学会では、企業からの参加が少なかったという報告があったが、実際に参加した企業は何社だったのか。また、今後どのようにこの取組を実施していく予定かお聞かせいただきたい。

○事務局

参加企業は2社であった。見学先の施設の収容人数の関係上、保護者等10名、企業担当者10名を定員として設定していた。結果として保護者等11名、企業担当者2名の参加があった。

今後については、どうしたら企業担当者により多く参加していただけるのか検討していかなければならないと感じているが、そもそも、企業に対してアプローチを掛けることに注力すべきなのか、この見学会や福祉事業所合同説明会において保護者のニーズがあることはわかったため、保護者への情報提供の機会に注力したほうがいいのかということも含めて検討する。

私どもは企業担当者の方に働いている障がい者の方々を実際に見ていただいて、思い込みなどを払しょくして働き手としてのイメージを持ってもらいたいと思っていた。しかし、企業担当者からすると、時間を割いて見学会に参加すること自体ハードルが高いと感じているのだと思う。何か企業に対して参加することによるメリットを提示していかないと、参加を促すことが難しいとも考えている。今後検討してまいりたい。

○赤川委員

参加した企業が2つということだったが、なかま江別のパン工房やレストランということか。

○事務局

なかま江別ではなく、民間企業が2社ということである。

○赤川委員

私はパン工房をよく利用するのだが、パン工房で働いている方々には好感が持てる。以前、ぶどうパンを買いに行くと出来上がりが上手いかなかったために売ることができないと言われ、作っている方々の熱心さに感心したところである。

保護者の方々には様々な情報を提供した方がいいと思うので、今後も工夫してもっと多くの機会を提供した方がいいと考える。

○岸本委員

私も福祉事業所見学会の案内を商工会議所経由で受け取ったが、企業側からすると障がい者の方を受け入れるイメージが持てないので、参加することに二の足を踏んでしまっているのではないかと思う。

江別市に「生涯活躍のまち」ができて数年というところで、まだ障がいのある方が活躍するまちとしては成熟していない状態である。また、企業はどうしても経営効率や合理性を重視してしまうことがある。そのため、江別市には少し長い目で見て障がい者就労環境向上の取組を続けてほしいと感じた。

○藤本委員

前回の協議会で話題に上がっていたと思うが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきた中で、ココルクえべつ内の入居者が拠点地域外に出ていくレクリエーション活動などは実際に予定されているのか。

○小林委員

主にサービス付き高齢者向け住宅の入居者に要望を聞いて検討を進めているところである。先日初めて北広島市のエスコンフィールドやくるるの杜に行くツアーを行った。

また、サービス付き高齢者向け住宅の中に自治会を発足し、自治会としても入居者の要望を集めて形にすることを考えている。入居者の家族の方々も参加できるイベントも行っていきたいと思っている。

4 その他

○田原委員

資料1のKPIがほぼ達成されていることについては、関わる皆さんの努力の結果であり感心したところである。KPI①の入居者数について、現在の入居率はどのぐらいになっているのか。

○小林委員

老人保健施設は2月の時点では95～96%の入居率であったが、現時点

では特別養護老人ホームも老人保健施設も大体99%の入居率まで上昇し、ほぼ満床である。100%に達しないのは、入院している入居者がいるため、空いている部屋はショートステイを受け入れることで満床に近づけているところである。

看護小規模多機能型居宅介護事務所は、今月やっと定員に達したところであり、施設の認知度が上がったと感じているところである。

サービス付き高齢者向け住宅は満室であるが、保育園は定員の半分程度であるので、より保育園の認知度向上に力を入れていかなければと感じている。

○中井委員

形成事業計画においては、令和5年度までの目標が定められている。この協議会を令和6年度以降どうするのか考えがあればお聞かせいただきたい。

また、この計画で予定されていること以上のことにすでに取り組みられていると感じているので、今後はどのように生涯活躍のまちを発展させる考えなのかお聞かせいただきたい。

○事務局

協議会のあり方については、前回の協議会でも説明させていただいたが、形成事業計画の進捗管理は令和5年度までとなっており、来年度の同じ時期に協議会を開催して令和5年度の実績について報告する予定である。

形成事業計画の進捗管理は終了することになるが、生涯活躍のまちの推進は引き続き継続していかなければならないため、今後どのような会議体で協議を行っていくかについては検討を行っているところである。今年度中には事務局と事業者において協議し、方向性をお示ししていきたいと考えている。

○白崎会長

その他、事務局から連絡等あるか。

○事務局

次回の協議会は2月頃を予定している。事務局で検討の上改めて日程調整する。

5 閉会